

令和 8 年度第 1 回鹿児島県立図書館協議会資料

令和 7 年度

鹿児島県立図書館運営に関する

点検及び評価結果

令和7年度 鹿児島県立図書館運営に関する点検及び評価結果

当館が策定している基本的運営方針を踏まえ、令和7年度の重点施策と関連する指標についての評価を実施し、その結果に基づく運営の改善を図ります。

【鹿児島県立図書館の目指す姿】

人づくりに貢献し、成長し続ける図書館～「知と知恵の拠点」を目指して～

【基本目標・重点施策】

<基本目標1：資料の充実とデジタル化の推進>

- 1 市町村立図書館等との役割分担を明確にし、県立の図書館として果たすべき役割を意識した効率的な資料の収集・整備に努めます。
- 2 県民の生涯学習や地域課題の解決を支援するため、利用者のニーズや鹿児島の地域性、社会や時代の変化等に対応した資料の整備と活用を図ります。
- 3 県内各地に保存されている貴重な郷土資料について、県内歴史研究会等との情報共有を図るなど、より積極的な収集・研究に努めるとともに、貴重資料を保存するための空間確保及び資料の防災対策に取り組みます。
- 4 貴重資料紹介展をはじめとする郷土資料の展示やデジタルアーカイブ化により、閲覧及び活用の促進を図ります。

〔重点施策〕

- 1 図書館資料の計画的な整備
- 2 郷土資料の網羅的な収集
- 3 郷土資料のデジタル化

<基本目標2：市町村立図書館等との連携強化>

- 1 両図書館がネットワークの中心となり、市町村立図書館をはじめとする県内図書館の蔵書の相互利用を活性化し、貸出文庫や相互貸借により他館の蔵書不足を補うなど、県内全域における図書館サービスの充実・拡大を推進します。
- 2 県内の市町村立図書館等に関する情報の積極的な収集に努め、ホームページを活用した情報の共有を図るとともに、各館の情報交流を推進します。
- 3 第5次鹿児島県子ども読書活動推進計画のもと、生涯を通じて読書に親しめるよう、親子読書会や読書グループ等の活動促進を啓発するとともに、市町村立図書館（室）及び学校等の関係職員を対象とした研修の充実を図り、子どもの読書活動を推進します。
- 4 両図書館が所蔵する郷土に関する貴重資料等について、大学や他の機関と連携した資料調査やアーカイブに関する調査・研究に努めます。

〔重点施策〕

- 1 市町村立図書館（室）支援の充実
- 2 ネットワークの構築
- 3 読書活動の推進

<基本目標3：個別最適なサービス機会の充実>

- 1 県民や利用者の多様なニーズに対応した高水準のサービスを提供できるよう、レファレンスツールの充実を図るとともに、レファレンス記録を蓄積し、アクセシブルな公開方法により、県民への課題解決に向けた情報提供に努めます。
- 2 両図書館が実施している団体貸出等のサービスについて周知を拡大し、制度の利用促進を図ります。
- 3 来館することが困難な利用者に対して、貸出・返却の郵送サービスを提供するほか、鹿児島県読書バリアフリー計画に基づき、録音図書の貸出や大活字本コーナーの充実、拡大読書器の提供、アクセシブルな電子書籍の導入等の取組を確実に実践し、誰もが読書を楽しむことができる環境の整備に努めます。

〔重点施策〕

- 1 課題解決支援・学習支援の充実
- 2 利用者に対応したサービスの充実
- 3 視覚障害者等の読書環境の整備の推進

<基本目標4：人と情報の交流拠点機能の充実>

- 1 県立の図書館としての役割と機能を県民にわかりやすく示しつつ、親しみやすい図書館として誰もが気軽に利用できるような雰囲気づくりに努めます。
- 2 両図書館が提供するサービスやイベント等に関する情報を、ホームページ・新聞・テレビ・ラジオ・SNS等の多様な媒体を効果的に活用し、より積極的な発信に努めます。
- 3 企画展や文学講座、講演会、生涯学習講座等の開催を通して、郷土鹿児島県の歴史や文化に対する県民の理解促進を図ります。
- 4 文化庁から国史跡「鹿児島城跡」として指定を受けた敷地にある県立図書館として、黎明館と連携しながら、所蔵する鹿児島城を含む郷土資料の更なる発信に努めます。
- 5 世界自然遺産に登録された奄美大島に位置する奄美図書館では、奄美群島の豊かな自然や文化・歴史に関する学びが深まるよう、所蔵する郷土資料の更なる発信に努めます。

〔重点施策〕

- 1 読書を媒体とした交流拠点機能の充実
- 2 情報発信力の強化
- 3 郷土の人・文化の理解と継承

<基本目標5：職員の資質向上>

- 1 市町村立図書館等の図書館職員の資質や技能の向上を支援し、全県的な図書館サービスの充実を図ります。
- 2 県民や利用者の多様なニーズに対応した高水準のサービスを提供できるよう、図書館職員の接遇、電話対応、レファレンス対応能力などの資質・能力の向上に努めます。

〔重点施策〕

- 1 図書館職員の資質向上支援
- 2 読書活動推進人材の育成

－評価基準－

評価	内 容	
A	非常に良好	計画どおりに実施でき、大きな成果が見られた
B	良好	計画どおりに実施できた
C	やや不十分	概ね計画どおりに実施できたが、一部が実施できなかった
D	不十分	計画どおりに実施できなかった

基本目標Ⅰ「資料の充実とデジタル化の推進」

- 1 市町村立図書館等との役割分担を明確にし、県立の図書館として果たすべき役割を意識した効率的な資料の収集・整備に努めます。
- 2 県民の生涯学習や地域課題の解決を支援するため、利用者のニーズや鹿児島県の地域性、社会や時代の変化等に対応した資料の整備と活用を図ります。
- 3 県内各地に保存されている貴重な郷土資料について、県内歴史研究会等との情報共有を図るなど、より積極的な収集・研究に努めるとともに、貴重資料を保存するための空間確保及び資料の防災対策に取り組めます。
- 4 貴重資料紹介展をはじめとする郷土資料の展示やデジタルアーカイブ化により、閲覧及び活用の促進を図ります。

Ⅰ 令和7年度の取組状況

	重点施策	取組状況		評価
		計画	実績	
1	図書館資料の計画的な整備	・利用者ニーズを常に把握し、県民の調査相談に資するための図書館として、また保存図書館としての資料の収集に努める。 ・スポンサーとの信頼関係を築くため、図書館の利用状況等について、スポンサーへの定期的な情報提供に努める。 ・計画的な蔵書管理に努める。	・計画的な購入や郷土資料の積極的な収集を行い、更に、適正な除籍を行ったことに伴い、計画通りの成果を上げることができた。 ・雑誌については、スポンサー制度により、19団体から32誌の提供を受けている。 ・収容スペースの確保を図りながら、計画的に約1万1千冊を受け入れた。	B
2	郷土資料の網羅的な収集	・郷土資料については、郷土の文化遺産として永く後世に伝えていくために積極的に収集する。 ・貴重資料の防災対策に努める。	・県政情報センターや市町村と連携し、行政資料や郷土誌等の収集に努めた。 ・データロガーによる定期的な温湿度管理や修復保存研修へ職員派遣を行った。	B
3	郷土資料のデジタル化	・郷土新聞等の保存及び利用の促進を図るため、計画的にデジタル化を進める。 ・デジタル化した貴重資料をホームページ上のデジタルアーカイブに掲載する。	・令和7年度は、県史料集の対象となる資料を中心にデジタル化を推進し、計画どおり行うことができた。現在までに全体の53.6%のデジタル化が進んだ。 ・デジタル化した貴重資料をデジタルアーカイブに掲載し、閲覧及び活用に供した。	A

2 指標の達成状況

	指標	目標値	実績値	達成割合
1	蔵書冊数	950,000 冊	950,767 冊	100.1%
2	郷土資料の蔵書冊数	131,400 冊	131,216 冊	99.9%
3	郷土資料のデジタル化進捗率	53.1%	53.6%	101.0%

3 評価と今後の取組について

概ね指標の目標値を達成することができた。

計画的な資料購入や郷土資料等の積極的な収集を行いつつ、適正な除籍を行うことで、収容スペースの確保を図りながら、充実した蔵書を適切に管理することができた。

特に、後世に継承すべき郷土資料（地域資料）については、保存図書館として今後も積極的な収集に努めるとともに、広く県民が活用できるようデジタル化を進めることで、貴重資料紹介展など郷土資料の展示や、デジタルアーカイブ化により、閲覧や研究のための活用に供することができた。

また、所蔵資料を適切に保存するための空間確保や定期的な温湿度管理など、資料防災への取組も積極的に行った。

今後も、生涯学習を支えるサービスの充実と資料収集・情報提供等を通して、県民のニーズに応えながらサービスを提供してまいりたい。

基本目標２「市町村立図書館等との連携強化」

- 1 両図書館がネットワークの中心となり、市町村立図書館をはじめとする県内図書館の蔵書の相互利用を活性化し、貸出文庫や相互貸借により他館の蔵書不足を補うなど、県内全域における図書館サービスの充実・拡大を推進します。
- 2 県内の市町村立図書館等に関する情報の積極的な収集に努め、ホームページを活用した情報の共有を図るとともに、各館の情報交流を推進します。
- 3 第5次鹿児島県子ども読書活動推進計画のもと、生涯を通じて読書に親しめるよう、親子読書会や読書グループ等の活動促進を啓発するとともに、市町村立図書館（室）及び学校等の関係職員を対象とした研修の充実を図り、子どもの読書活動を推進します。
- 4 両図書館が所蔵する郷土に関する貴重資料等について、大学や他の機関と連携した資料調査やアーカイブに関する調査・研究に努めます。

Ⅰ 令和7年度の取組状況

	重点施策	取組状況		評価
		計画	実績	
1	市町村立図書館（室）支援の充実	・県立図書館と市町村立図書館（室）と情報を共有するとともに、連携を密にし、各館（室）における利用者サービスの向上を促進する。 ・横断検索システムを活用した県内各図書館（室）との相互貸借の業務が円滑に行われるよう努める。 ・貸出文庫により、市町村が希望する図書の貸出に努める。	・県内の市町村図書館（室）に関する情報の積極的な収集・広報に努め、各館の交流を推進したネットワークを通じたサービスが浸透してきている。 ・図書館システムにおけるポータルサイトの利用促進を呼びかけた。 ・前年と比べ、貸出冊数は減少したものの、市町村を通し、学校や施設等にも希望する図書を貸し出すことができた。	B
2	ネットワークの構築	・システム管理に努めるとともに、システム活用に関する利用規則等の職員への周知・指導の徹底を図る。 ・横断検索システムへの参加・利用促進を図る。	・横断検索件数は、30,219件で93.0%の達成率であり、横断検索の利便性が利用者ニーズに合致してきていることが言える。 ・利用促進については、県図書館協会の総会・理事会等を通じて行った。	B
3	読書活動の推進	・モデル図書室としての児童文化室の充実を図る。 ・県立図書館の館長を務めた椋鳩十氏の功績を伝えるとともに、読書活動を推進することを目的とし、椋鳩十生誕120周年記念事業を実施する。	・親子読書に関する書籍や椋鳩十コーナーの整備・充実など、児童文化室のリニューアルを行った。 ・「親子読書研修会」や「まるごとむくはとじゅう」のイベントに関連付けた企画展示は、閲覧者が第一期925人、第二期970人であった。	B

2 指標の達成状況

	指標	目標値	実績値	達成割合
1	相互貸借冊数	6,140 冊	5,923 冊	96.4%
2	貸出文庫	25,432 冊	23,575 冊	92.7%
3	横断検索件数	32,500 件	30,219 件	93.0%

3 評価と今後の取組について

指標の目標値に対する達成割合がいずれも90%を超えることができた。

市町村立図書館（室）の支援の充実については、本館主催事業をはじめ、県図書館協会との連携を図りながら、ニーズを的確に把握し、必要なサービスの提供に努めていく。

また、横断検索システムなど既存のサービスについてもホームページやSNSを効果的に活用するなどして周知・利用促進を図っていききたい。

ネットワークの構築については、今年度末システム更新を迎えることを契機として、これまで以上にシステム管理の徹底を図るとともに、市町村立図書館とのネットワークの充実を図っていききたい。

読書活動の推進については、「親子読書研修会」「海音寺潮五郎記念文化講演会」「鹿児島県図書館大会」等を実施することで県民の読書意欲を喚起するとともに、「読書活動推進人材スキルアップ研修会」等を通じて、読書活動を推進する人材の資質向上を図り県内が網羅的に読書活動推進に取り組む雰囲気の醸成に努めていく。

基本目標3「個別最適なサービス機会の充実」

- 1 県民や利用者の多様なニーズに対応した高水準のサービスを提供できるよう、レファレンスツールの充実を図るとともに、レファレンス記録を蓄積し、アクセシブルな公開方法により、県民への課題解決に向けた情報提供に努めます。
- 2 両図書館が実施している団体貸出等のサービスについて周知を拡大し、制度の利用促進を図ります。
- 3 来館することが困難な利用者に対して、貸出・返却の郵送サービスを提供するほか、鹿児島県読書バリアフリー計画に基づき、録音図書の貸出や大活字本コーナーの充実、拡大読書器の提供、アクセシブルな電子書籍の導入等の取組を確実に実践し、誰もが読書を楽しむことができる環境の整備に努めます。

1 令和7年度の取組状況

	重点施策	取組状況		評価
		計画	実績	
1	課題解決支援・学習支援の充実	・郷土に関する事項の件名やレファレンス事例の電算入力、パスファインダーの作成等、レファレンスツールの充実に努める。 ・課題解決支援・学習支援等の図書館サービスの機能向上・充実を図る。	・レファレンス件数は、目標達成率100.5%であった。なお、利用者アンケートにおいてもレファレンスサービス利用者の97.4%が「満足・やや満足」と回答しており、県民や地域の課題解決支援への役割を十分果たしていることがうかがえる。 ・課題解決支援コーナー4分野の資料収集や展示、配架の工夫を行い、充実を図った。	B
2	利用者に対応したサービスの充実	・医療・福祉施設への支援として、来館による図書館利用困難者への読書活動の普及を推進する。また、県内の医療・福祉施設へ当館が所蔵する図書を一括して貸し出す取組を行う。	・県立学校を対象に実施していた団体貸出を、医療福祉施設等にも拡大したことが、目標値を大きく上回った要因である。	A
3	視覚障害者等の読書環境の整備の推進	・多様な文化に対応したサービスの提供に努めるとともに、読書バリアフリーコーナーの設置や障害者サービスのリーフレット作成、国立国会図書館の視聴覚障害者等用データサービスへの参加など、読書バリアフリーの普及に努める。 ・電子書籍については、非来館者や障害者サービスの向上のため、必要な情報収集等に努め、令和7年度秋頃の導入を目指す。	・障害者サービスについて、現在ある拡大読書器（平成20年購入）は、モニターが小さく、コントラストや照度の調整が難しいため、令和8年度に更新し、視覚障害者に対するサービスの向上を図りたい。 ・利用者アンケートに電子書籍の導入希望があったが、当館でも令和7年度から電子書籍の導入を始めたことで非来館サービスの充実を図っている。	A

2 指標の達成状況

	指標	目標値	実績値	達成割合
1	レファレンス受付件数	20,830 件	20,937 件	100.5%
2	団体貸出件数／冊数	74 件/620 冊	153 件/3,993 冊	206.8% /644%
3	バリアフリー図書資料数	3,622 冊	3,758 冊	103.8%

3 評価と今後の取組について

利用者アンケートにおけるレファレンスの満足度は97.4%が「満足・やや満足」と回答しており、県民や地域の課題解決支援への役割を十分果たしていることがうかがえる。引き続き、調査研究に役立つ図書資料の収集に努め、レファレンス結果を集積することで、更なる課題解決支援サービスの充実につなげたい。

団体貸出は、目標値を大きく上回ったことから、数値目標の見直しを検討する。また、今後も県内の各公共図書館（室）の中心となり、当館における貸出業務はもとより、市町村への貸出文庫による支援を継続するとともに、県内の学校及び医療福祉施設等への貸出を拡充させることにより、個別最適なサービス機会を充実させていく。

令和7年度から導入したアクセシブルな電子書籍については、読書バリアフリー法や県読書バリアフリー計画を踏まえ、非来館サービスの充実を図っていく。

基本目標 4 「人と情報の交流拠点機能の充実」

- 1 県立の図書館としての役割と機能を県民にわかりやすく示しつつ、親しみやすい図書館として誰もが気軽に利用できるような雰囲気づくりに努めます。
- 2 両図書館が提供するサービスやイベント等に関する情報を、ホームページ・新聞・テレビ・ラジオ・SNS等の多様な媒体を効果的に活用し、より積極的な発信に努めます。
- 3 企画展や文学講座、講演会、生涯学習講座等の開催を通して、郷土鹿児島県の歴史や文化に対する県民の理解促進を図ります。
- 4 文化庁から国史跡「鹿児島城跡」として指定を受けた敷地にある県立図書館として、黎明館と連携しながら、所蔵する鹿児島城を含む郷土資料の更なる発信に努めます。
- 5 世界自然遺産に登録された奄美大島に位置する奄美図書館では、奄美群島の豊かな自然や文化・歴史に関する学びが深まるよう、所蔵する郷土資料の更なる発信に努めます。

1 令和7年度 of 取組状況

	重点施策	取組状況		評価
		計画	実績	
1	読書を媒体とした交流拠点機能の充実	・研修室の活用促進を図る。 ・椋鳩十生誕120周年記念事業を開催し、様々なイベントや企画展をとらして県民の読書意欲の喚起に寄与する。	・研修室の貸出促進を図るため、利用案内をホームページに掲載するなど、SNSを活用した広報に取り組んだ結果、112件の貸出につながったが、80.0%の達成率だった。 ・「親子読書研修会」や「まるごとおくはとじゅう」のイベント、企画展など、幅広い年齢層を対象とした交流の場を設けた。椋鳩十氏の功績や鹿児島県の読書活動の経緯等について、より多くの県民と再確認する機会となった。	C
2	情報発信力の強化	・各報道機関等への情報提供を積極的に行い、報道機関との連携強化に努める。 ・広報紙「県図だより」やHP、Facebook、Instagramの内容の充実を図り、積極的な情報発信に努める。	・各報道機関等への広報依頼を行い、各種行事の周知を図った。 ・タイムリーな記事を継続的に掲載することで、ホームページアクセス件数が503,500件であったが、目標値には若干到達しなかった。今後も、利用者にとって魅力ある情報を提供できるように努めたい。	B

3	郷土の人・文化の理解と継承	・貴重資料紹介展や講演会を行い、県民の生涯学習の一助とする。 ・県内の歴史研究会等による学習成果を活用して行う教育活動の機会を提供する「しろやま歴史探究ひろば」を実施する。	・7月と1月に「かごしまの歴史文化講演会」を実施するとともに、講演内容に沿った関連貴重資料の公開を行ったところ、目標を大きく上回る約 2,600 人が参加した。 ・2月に「しろやま歴史探究ひろば」を開催し、109 人が参加した。研究団体と参加者が双方向で学び合い、郷土の歴史への理解を深める場となった。	A
---	---------------	---	--	---

2 指標の達成状況

	指標	目標値	実績値	達成割合
1	研修室利用件数	140 件	112 件	80.0%
2	ホームページアクセス数	527,000 件	503,500 件	95.6%
3	資料展等の参加者数	1,910 人	2,613 人	136.8%

3 評価と今後の取組について

研修室利用は目標値に対する達成割合が 80.0%とやや不十分な結果となった。今後も、広報紙や HP・SNS を積極的に活用した広報を展開することで、大研修室でのイベント開催を含む研修室利用等の向上を図っていききたい。

また、HP アクセス数も指標目標値に若干到達しなかったが、今後は、SNS を戦略的に活用し広報に努めていききたい。

今後も、魅力ある空間づくりや幅広い年齢層が交流できる場の創出に努めながら、人・地域・情報をつないでいききたい。

貴重資料展では、市町村や民間企業の協力も得て広報の充実を図った結果、来場者数も目標を大きく上回るなど県民の郷土資料に対する興味・関心の高さが窺えた。

今後も、貴重資料展や文化講演会の開催を通して、県民が生涯にわたって読書に親しみ、郷土の人や文化を理解し継承する心を育てまいりたい。

基本目標 5 「職員の資質向上」

- 1 市町村立図書館等の図書館職員の資質や技能の向上を支援し、全県的な図書館サービスの充実を図ります。
- 2 県民や利用者の多様なニーズに対応した高水準のサービスを提供できるよう、図書館職員の接遇、電話対応、レファレンス対応能力などの資質・能力の向上に努めます。

1 令和7年度の実施状況

	重点施策	取組状況		評価
		計画	実績	
1	図書館職員の資質向上支援	・学校図書館関係職員を対象とした講座を実施する。 ・市町村立図書館（室）関係職員を対象とした講座は2回（基本編と実践編）に分けて実施する。 ・公共図書館及び学校図書館の関係者が一堂に会し、本県の読書活動推進や図書館の活用のためにどのような連携ができるのかについて研究を深める場を設定する。 ・各地における研修会へ職員を派遣するとともに、来館研修や団体利用、図書館司書実習を受入れるなど、市町村や各種団体等を支援する。	・学校図書館「幼稚園・小学校」講座への参加率は定員の113%、「中学校・高等学校」講座への参加率は定員の57%であり、例年並みであった。 ・図書館「総合」講座への参加率は定員の112%であった。特に、基本編への参加率が100%を超えていた。また、参加者の満足度についても目標値を上回った。 ・令和7年度図書館大会の参加者は596人であり、過去5年間では最も参加者が多かった。 ・各地における研修会の職員派遣は21件、受講者は925人であった。また、来館研修は68件、受講者は732人であり、昨年度を大きく上回った。図書館司書実習については、希望がなかったことから、受け入れ実績はなかった。	A

2	読書活動推進人材の育成	・家庭、地域、学校の関係者等、幅広い年代を対象に読書活動に関する知識と技能の向上を図る研修会を実施する。 ・ボランティアを積極的に受け入れるとともに活動の支援を行う。	・読書活動推進人材スキルアップ研修会は県内2か所（南薩地区と姶良・伊佐地区）で実施し、読み聞かせ等のワークショップを通して読書活動に関する知識と技能の向上を図った（参加者は236人）。 ・高校生から一般まで、123人がボランティアに登録し、延べ876人が活動した。	B
---	-------------	---	--	---

2 各種指標の達成状況

	指標	目標値	実績値	達成割合
1	講座・研修等への参加者数	634 人	714 人	112.6%
2	講座等に対する参加者の満足度	88.0%	96.0%	109.1%
3	ボランティア登録者数	133 人	123 人	92.5%

3 評価と今後の取組について

学校図書館及び公共図書館の関係者を対象に実施する各講座や図書館大会の参加者数は、目標値を大きく上回っており、満足度についても、「大変そう思う」「そう思う」を合わせると、目標値を大きく上回っている。参加者数の増加や満足度の向上は、いずれも、時代の要請や職員のニーズに対応した内容の充実が要因であると考えられ、図書館関係職員の資質向上の良い機会となっていると思われる。また、図書館関係職員に限らず、児童・生徒、保護者、地域の読書グループの方など一般の方を対象とした講師派遣や来館研修の受入れを積極的に行うことは、読書活動推進人材の育成だけでなく、県民の更なる読書活動の推進にもつながっていると思われる。

今後も、時代の要請や地域の課題、要望を踏まえながら講座等を実施するとともに、講師派遣や来館研修、図書館ボランティア受入れ等を積極的に行い、図書館職員の資質向上支援や読書活動推進人材の育成に努めたい。